
「ド・チンピラ」

長根兆半

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

「ド・チンピラ」

【Nコード】

N3058F

【作者名】

長根兆半

【あらすじ】

トトンコ・トントトンコ・トンシャンシャン・トコトコシャン・トコトンガム公、グミ助、チヨコ坊の3人が繰り広げるコメディ小説。

「ド・チンピラ」

トトンコ・トン

トトンコ・トン

シャンシャン・トコトコ

シャン・トコトン

エー、毎度取り止めの無い話にお付き合いを頂き、誠に有り難う御座います。

木に止まっていたはずめが鉄砲で撃たれた、だが落ちてこない、なぜだ・・・なんて聞くと、答えが、根性のあるはずめだから、なんてね、おかしなことに、少しだけうなずいてしまう所が又、なんとも可らしい。

はずめの根性の次がカエル、ド根性ガエルなんて漫画がありました。が、どうして、なかなかもんです。ま、根性といえばなんと云っても、スポーツもの、巨人の星、柔道一直線、アタックナンバーワン、こうした系統の話は俗にはスポコンなんていわれます。

斜めに構えて、今時ハヤラネンだよ、なんて言わず、真つ直ぐに見てますと、まったく熱くなります。

ただだけない根性もありまして、何でも御注進の岡ツ引き根性、ま、今風に言つと、いい子ぶりっ子のチクリ屋って事になりますか、ヤキモチ半分のスパイ根性、でしょう。

嫌ですなまったく。人の機嫌を取るのが上手で、只で飲み食いする太鼓持ちをタカリ根性とでもいいますか、これも端から見るとまったく情けないもんです。

隙有らば他人の物をひよいと掠め取るコソドロ根性。いつ何を盗られるかと思うと、油断も隙もあつたもんじゃない。

こういうトボケた人とは付き合いたくはないもんです。とはいえ、寂しい時には誰でもいいから話し相手が欲しくなるもんでして、人には強気な事を言いながらも、自分の寂しさにはなかなか勝てない、寂しさつてえものはまったく手強い。

尽くしに尽くし、身を粉にして働いた拳句に、子ができないという事で嫁ぎ先から出されたチヨコ坊ですが、どっか焼けんなってガム公の案内で、グミ助と三人、ヨーロッパ旅行へいった訳ですが、道中は何があっても、どことなく、いいなって気もしてましたが、日本へ帰ってしばらくしますと、やっぱりこのお、あつちとこつちじや、どっか違うんじゃないかって気がしてきます。ガム公はそのまま仕事で日本には帰ってこないし、どこにいるのかもしれないもんですから、奥歯に物が挟まったようで、気になっても聞く相手が居ない。桜三月花見時とはいえ、こうなりますつてえと、寂しさが募つて膨らみ、落ち付きもなくなつてくるもんで、チヨコ坊も耐えられなくなつて、グミ助の破れ長屋に遊びに来ました。

グミ助はグミ助で、溜息かなんかついてドナウ、セー又かテムズ川、やっぱり桜は日本に限る。なんて言いながらシト息ついていてる。

「なにしょぼくてんのよ、花見に行こうよ」

「平和だな、相変わらずよ。おめエと花見したシにヤ、こつちの身がもたねーヨ、でエいち、なんだつてそんなに鼻息があれえんだ」

「あら、御挨拶ね、何もあたしや取つて食オつてんじゃないんだから、今さつきゲーシャ見てきたけど、腹がたつてしょうがないんだから」

「なんでゲーシャ見て腹が立つんだい。綺麗でウツトリすりやアいいじゃねエか」

「バカ、映画だよ、映画見たんだよ」

「なんだ、だったら俺も見てしまった」

「ジャ、話しは早い、この話イ肴に、行こう花見、ネーッテバア」

「そうクネツとすんなよオ、チヨコ坊、たまアにこうやって遊びに来てくれるから、寂しさもまぎれ、いいようなもんだが、シトリで

いた日ニヤ死にそうだよ。ガム兄イは行方不明、隣じゃ出世したかして仕事だツつうて、これも外国に行っちまうしよ」

「フーン、この際思い切りさ、パーツと行こう、花見じゃないの」

「その花見だよ、桜が可哀想だとは思わねエかい」

「なんでさ・・・」

「罪じゃねエか」

「なにが可哀想で、なにが罪なのさ、グミちゃん、あんた何考えてんのよ」

「まだ解らねエかなア」

「解らないじゃないか、それだけじゃ、もう言っとくれよ」

「ジャ言うが、怒んなよ、桜がクスムってこつたよ」

「ま、グミちゃん外国行ったら上手んなツたね。ドキドキしちゃうじゃないか」

「なんだいなんだい、ガム兄イとお医者さんごっこしたって言うってポツとしといて、今度はドキドキか、お前エの実家は材木屋か」

「あら、どうして分のの」

「キが多いからよ」とか何とか、褒めてるんだかオチヨクってるんだか分からん事を言ってる所に、ボロ長屋の大家が息せき切ってグミ助を呼んでいます。

「おおいグミ、げエ国から電話だ」って走ってきた。

「電話だって、どツからだ」グミ助が怒鳴りました。

「アツテネー」

「会ってねーものが分かるか、馬鹿大家」言いながらグミ助も大家の電話に走って行きます。

「おおいグミ公、こつちだ」

「こつちだって、電話あつちだろ」

「ここだここ」

「なんだ、線が切れてるじゃねエか」

「ワイヤレスだからはなツからねーんだよ」

「話、できるのかア」

「電話代かかるから、とにかく早く出る」

「もしも、あ、ガム兄ィ、今ドツからだい、な、なんだって、金がなくとも仕事があればどこへでも行くって、どっからだい」

《アテネ》

「アテネって、ギリシャのか、で、何かアツテネノカ」

《何もねエが、そつちじゃ俺を探せんだが、俺からは電話できるじゃねエか》

「嬉しいな、丁度チヨコ坊が来てる、電話代高けエーから、こつちからかけなおそうか」

「気にすんな」

「そつちこそ気にしなくっていいよ、どうせ大家の電話だから・・・」

「

《バカヤロウ、まだそんな見でいやがる。グミ、そう言うのをな、コソ泥根性ってんだ。で、チヨコ坊、元気かい》

電話でまでドヤサれたもんですから、いかにもゲンナリのグミ助です。

「・・・い、今代わる」

「あらガムちゃん、どうしたのさ、その後、熟んだ物が落ちたでもないし、心配してんだから」

《そつかい、心ペエしてくれるシトがいるってのは、有り難てエな》

「どこで何やってんだい」

《何って、板前エだよ》

「ならいいけど、知らない土地でヘタ前だったりヨタ前やってんじやないだろね」

《こつちの奴らア、中身がない割にプライドがたけエからやりにくいが、ま、その道、心ペエねエー》

「プライドがスライドでもいいけど、ガムちゃんの盛り付け、いつも違うからさ、解ってくれるシトいるのかい」

《渡る世間は地獄でも、たまぁにヤ仏もいる。鬼ばかりじゃねエさな》

「そこ天気いいの、これから花見に行こうかって、グミちゃんと言つてたところよ」

《いい、いいな、花見か、俺はこれから寝る。ま、元気で何よりだ、》

チヨコ坊は神妙に、こつくりこつくりと電話に頷く。それを側でグミ助が恨めしそうに見ています。やがて電話も終わり、さて花見と言ったチヨコ坊の優しい事。

グミ助が豊一枚分のビニールシートと赤いカーペットを抱え、チヨコ坊はお酒とつまみを入れた藤籠を肘にぶら下げ、やってきました桜の下に。

もう満開で、どこも人だかり。

「すいてるとこなんざねエじゃないか」

「二人つきりなんだからどこだっていさね。あ、あの若い連中の横、あすこがいい」

酒と肴を出して、さて飲みながら隣の話が聞こえます。

な、おい、お前結婚するって本当か。まだまだ先の話よ。いつだいな。来年。なんだ、来年か、鬼が笑うぞ。あははは。んなこと言つたつてさ、準備があるから丁度いいのよ。なんだい準備つて。お料理、お茶、お花、出来れば着付けなんかをやるのよ。金かかるだろ。いいの、結納金でチャラだから。

この話を聞いていたグミ助が、同じだなとつぶやきますと

「何が同じなのよ」とチヨコ坊が手酌で酒を飲む。

「ゲーシャとさ」

チヨコ坊、ああと頷き飲んだ杯そつと置き、幼い子を誘拐か人買いみたいに連れてって、しかも女優が韓国人じゃ、まるで日本は悪者じゃないか、何のつもりなんだい、日本のゲーシャは皆外人かア、なんだあの映画とか言つて啖呵を切っちゃった。

はつとしたようにグミ助が、だよなだよな、時が時だけに、火に油あぶっかけた野次馬根性だつうて大きな声を出す。

いつしか隣の連中も混ざって、ああ言うのを、脅せば何とかなると
思ってるチンピラ根性だと怒って、そつだそつだのドンちゃん騒ぎ。
桜花、耐えて一年、パツと咲き・・・お後がよろしいようで、あら
ドッコイ、さてと一服。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n3058f/>

「ド・チンピラ」

2010年10月15日23時45分発行